

日本歯科医師会の「歯っぴいスマイル」
vol.26, 2018から引用しました。

歯周病は、糖尿病、脳梗塞・認知症、動脈硬化、感染性心内膜炎、心筋梗塞、がん、誤嚥性肺炎、肥満、骨粗しょう症、早産・低体重児、バージャー病といった全身のさまざまな病気の原因と言われています。

特に糖尿病との関係は深く、右のような「負のスパイラル」を防ぐには「歯の手入れ」が大事なのです。



心臓血管外科★健康講座

歯は健康のバロメーターと言ってよいでしょう。心臓血管外科の手術を受ける患者さんには、歯科で歯の状態を必ずチェックし、必要なら治療していただいています。

岩手県立中央病院心臓血管外科では、身近な医療情報を解説した健康講座を県民の皆さんに提供します。第32号は「歯の手入れ」です。



心臓血管外科の健康講座なのに「歯の手入れ？」と思われるかもしれませんが、**一見無関係に思える歯と心臓や大動脈の病気ですが、実は密接に関係しています。**歯をきちんと磨き、歯周病を予防することで、命に関わる心臓や大動脈の病気になりにくくなるのです。

しかし、すでに手術が必要な状態なのだから、今更、歯の手入れと言われても、と感じる方もいらっしゃるかもしれません。

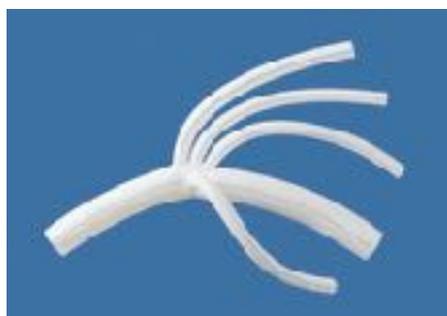


「歯の寿命を伸ばす会」のホームページより引用

40歳以降、日本人の歯はどんどん減っていくのがわかります。症状がなくても、定期的に歯科受診して歯をきれいに保ちましょう。



人工弁の例



人工血管の例

未治療のむし歯や歯周病は、**細菌が繁殖した状態**です。心臓血管外科では人工弁、人工血管、ステントグラフトなど**人工物**を体内に留置する手術が多いわけですが、ここに歯の病気由来の細菌が感染してしまうリスクがあります。できる限り治療した方が良いでしょう。

むし歯の治療自体で、細菌が血液の中に入ってしまう、**心臓の弁などに感染して弁を破壊する病態**も知られています。**感染性心内膜炎**といいます。これを防ぐため、**抗菌薬を投与しながら歯科治療を行う**ことがあります。

緊急手術の適応となった患者さんでは歯の治療をしている時間的猶予がないこともあります。しかし、術後、無事退院された後に、体力が回復されたところで、必要に応じて抗菌薬を投与しながら、**きちんと歯の治療**することは重要なのです。

もともと歯の治療が不要な方も、心臓血管外科の手術後は、**口腔内の清潔が重要**です。定期的に歯科受診をして歯の健康状態をチェックすることは大変重要です。歯の治療が必要な場合は、抗菌薬の投与、抗凝固薬、抗血小板薬の取り扱いで疑問点があればいつでもご紹介ください。抗凝固薬、抗血小板薬は重要な薬が多く、**中止せずに歯科治療を行うのが原則**です。

岩手県立中央病院心臓血管外科

健康講座 第32号